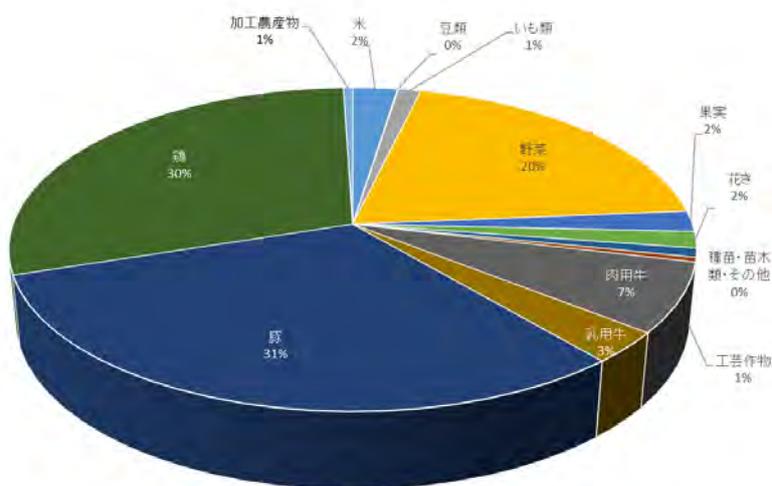


1.5.3 耕種農業・畜産農業

耕種農業は、温暖な気候を生かしてキャベツ、白菜、にんじん、水稻などの露地野菜が盛んでありますが、トマト類、ピーマン、いちご等の施設園芸野菜も多く栽培されています。近年は機械化に伴う効率化が進んでおり、今後は生産量の更なる増加が見込まれています。

畜産農業は、肉用牛 6,569 頭（繁殖・育成牛 4,599 頭、肥育牛 1,970 頭）、乳用牛 916 頭、肉豚 118,097 頭、ブロイラー 1,711,200 羽、採卵鶏 1,059,933 羽となっており、農業生産額の 71%（平成 27 年）を占め、本町の主産業となっています。



(出典：わがマチ・わがムラ)

図 10 農業産出額の内訳

1.5.4 林業

本町の林野面積は、33.16km²であり、民有林は11.19km²(公有林はそのうち5.70km²)となっています(平成30年時点)。

町内では平成 26 年度より民間企業が先駆的に主体となって林地残材等を燃料化の上、発電事業を運営しています(「1.6 再生可能エネルギーの取組」に詳細を記載)。課題として木材価格の不安定化(従来の低迷からウッドショックによる高騰化)や林業労働者の高齢化が危惧されています。今後は町としても森林の持続可能な活用、維持管理に積極的に関与し、森林が町の貴重な地域資源であるという町民の認識、理解の醸成を進めていく必要があります。

Topics : 川南町の特産品

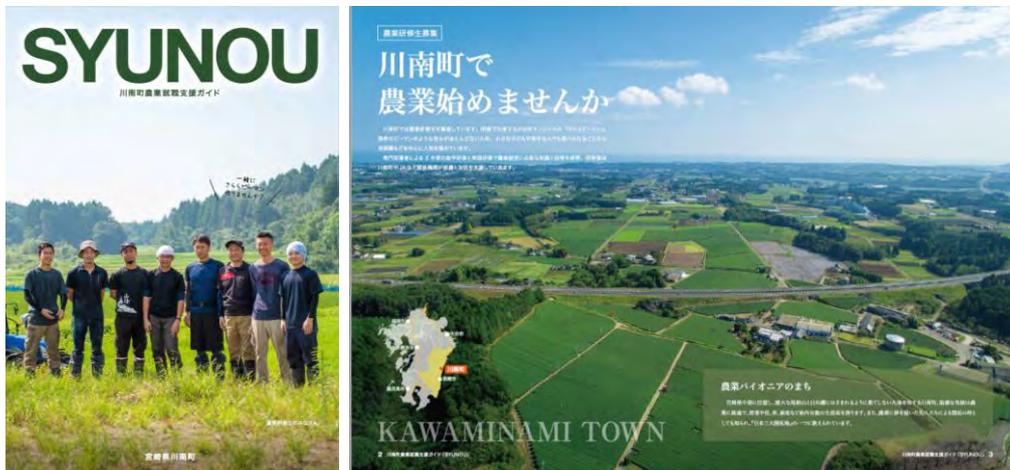
- ①尾鈴茶：温暖な気候に広大な平野を有する川南はお茶の栽培に適しています。17戸の農家が126haの面積を栽培しており、県下有数の生産地であります。
- ②さららピーマン：苦みが少なく、小さなお子さんにも人気。川南町トレーニングハウス農業研修の研修品目となっています。
- ③有機バナナ (NEXT716)：特殊な農法である「凍結解凍覚醒法」で栽培されている国産有機バナナ。糖度が高く、農薬を使わないため“皮ごと”食べられるのが特徴(NEXTファーム宮崎)。
- ④地頭鶏(じとっこ)：あまりのおいしさから地頭職に献上されていたことが名前の由来となった宮崎を代表する地鶏です。日向灘と尾鈴山を望む丘でストレスを与えることなく育てられています(黒木食鳥)。
- ⑤あじ豚：トウモロコシと動物性たんぱく質ゼロ飼料を開発し、肉と脂にこだわって肥育されたその味は平成21年度畜産大賞最優秀賞・農林水産祭天皇賞を受賞しています。(宮崎第一ファーム)



Topics : 就農支援・トレーニングハウス

川南町では基幹産業である農業を更に発展させるために、農業研修生を募集・支援しています。専門指導者による2年間の座学研修と、トレーニングハウスでの「さららピーマン」の現地研修栽培を通して、農業経営に必要な知識と技術を取得。研修後は町やJAなど関係機関が指導や農地の斡旋、ハウス取得など全面的にバックアップする体制を構築しています。昨年より新たにいちごコース(さがほのか、ゆめのか)を新設し、更なる受け入れ拡大を図っています。これらの支援について、動画共有サイト(you tube)でも紹介しています

(キーワード「川南町 就農」で検索)。



🌱 就農までのスキーム



就農支援パンフレット

1.5.5 商業

本町の中心部にトロントロン商店街がありますが、空洞化が進行しており、空き店舗の課題などがあります。その一方、地元商工会が中心となって毎月第4日曜日に開催される「トロントロン軽トラ市」では地場産品、工芸品等を対面販売しています。平成18年から開催され、現在では出店台数毎月約130台、県内外から1万人以上の買い物客が集まる大きな賑わいを創出しています。



軽トラ市の様子

また地域経済循環を目的として、本町では町内の協力店だけで使える電子地域通貨「TORON(トロン)」を運用しています。アプリ型とカード型の2種類で、役場に設置されている専用機を使ってチャージすることで、現在では110を超える町内の飲食店やスーパーなどの登録店舗で利用することができます。



川南町地域通貨「TORON(トロン)」

1.5.6 工業(製造業)

本町の塩付工業団地には一般機械や果汁工場、ブロイラー処理工場などが多数立地し、見湯地区の中核的工業団地の一つとなっています。

また、JA系統のブロイラー処理工場(宮崎くみあいチキンフーズ川南食品工場)が新たに完成し、令和元年7月から操業を開始しています。新工場は、海外展開の加工拠点となることが期待されています。



くみあいチキンフーズ川南工場



宮崎県農協果汁株式会社(サンA) 工場
(<http://www.kajyu.co.jp/torikumi/#kojyo>) より

Topics : かわみなみ PLATZ (ぷらっつ)

令和2年4月に川南PA隣接地にオープンした「かわみなみ PLATZ (ぷらっつ)」は、東九州自動車道、川南PAの機能を果たしながら、一般道からも道の駅のように気軽に同じサービスを受けることができる九州で初めての施設です。施設名の、「PLATZ (ぷらっつ)」とはドイツ語で「場所」、地元言葉で「気軽に」という2つの意味があり、かわみなみにぷらっと寄って下さいという思いが込められています。施設には地場産品や土産の販売、食堂やテイクアウト店舗も併設されています。

川南PAは、都農IC～高鍋ICのほぼ中央に位置し、最寄りの休憩施設は北に74kmの位置に道の駅はゆま、南は約38kmの位置に宮崎PAとなっています。北側は特に高速道路上の休憩施設が長距離に渡って設置されていないことから、高速道路上下線ともに川南PAへ立ち寄る割合が高い傾向にあります。今後はかわみなみ PLATZ の充実を図ることで、地域活性化の拠点となることが期待されています。



かわみなみ PLATZ

1.6 再生可能エネルギーの取組

本町では、地球温暖化防止対策の一環としてクリーンエネルギー利用を促進するため、太陽光発電システムの導入やバイオマス利活用に取り組んでいます。本町における再生可能エネルギー創出設備及び稼働状況について、次表に示します。

表1 町内の再生可能エネルギー発電設備導入状況

種類	施設名	発電出力	運営主体	稼働開始年度
バイオマス発電	みやざきバイオマスリサイクル(株)	11,350kW	民間	平成17年度
	(株)宮崎森林発電所	5,750kW	民間	平成26年度
太陽光発電	東地区公民館	8.5kW	町	令和元年度
	通山公民館	8.5kW	町	令和元年度
	多賀公民館	8.5kW	町	令和元年度
	宮崎ガス(株)	2,025kW	民間	平成24年度
小水力発電	青鹿ダム小水力発電所	47kW	国	平成26年度

バイオマス発電については、2社の民間企業のバイオマス燃料を用いた発電プラントが立地しており、町内の再生可能エネルギー創出のトップランナーとして発電事業を運営しています。

みやざきバイオマスリサイクル株式会社は、宮崎県の主力産業であるブロイラー養鶏(全国1位)で発生する鶏ふんを町内外の養鶏農家から買い取り、燃料資源として周辺環境に配慮した密閉型焼却炉にて発電に活用しています。焼却灰は肥料として再利用されています。同社は平成25年に宮崎県次世代エネルギーパークに認定され、年間約300人の施設見学者を受け入れています。平成17年度バイオマス利活用優良表彰(農林水産省農村振興局長賞受賞)平成18年度新エネ大賞(新エネルギー財団会長賞受賞)をそれぞれ受賞しています。

株式会社宮崎森林発電所は、県内の未利用間伐材・林地残材を中心に年間約72,000tの木材を発電用燃料として活用しています。同社の特徴として、伐採現場に出向き自社収集を行い、グループ会社チップ工場にて破碎・チップ化を行うといった一貫した材供給体制とノウハウを構築することで、材供給の安定化を図っています。

本町としても、両社のように事業として長きに渡って安定したバイオマス利活用を継続している事業者と有機的に連携をすることで、町全体で一体となったバイオマス利活用を進めて参ります。

太陽光発電については、平成25年より宮崎ガス株式会社が、塩付工業団地(町有地)の遊休地(約3,000m²)に大規模太陽光発電事業を実施し、売電収益の一部を町へ寄付し

ていただいています。また、町としても町内3か所の公民館に太陽光発電設備を設置し、脱炭素及びクリーンなまちづくりを推進しています。

小水力発電については、平成26年より青鹿ダムから放流される水を利用した小水力発電設備を国営事業で設置し、尾鈴土地改良区連合で維持管理しています。発電された電気は全量売電し、収益は土地改良施設の維持管理費に役立てられています。



左：みやぎきバイオマスリサイクル(株) 右：(株)宮崎森林発電所



左：宮崎ガス(株)塩付工業団地 大規模太陽光発電施設 右：青鹿ダム小水力発電所